

7月記録的豪雨被害 県内各地を調査

7月の記録的豪雨により、行方不明1人、軽傷者3人、全壊3棟、半壊7棟、一部損壊含め463棟が被害を受けるなど県内各地で発生しました。渡辺県議は各地の被害の聞き取り調査を行いました。その一部をご報告します。



山形 7月18日、山形市本沢川 山形市は本沢地区の住民に避難勧告を発令 写真は本沢橋から上流を眺望 一部家屋で床上浸水



山形 7月19日、山形市本沢川 渡辺県議が本沢川付近の住民と懇談 住民「川に砂利が溜まっている取れないか」



白鷹 7月22日、白鷹町貝生地区 豪雨により家の裏の沢が氾濫 家屋に土砂が流入 住民「このあり様を見て行ってください」



白鷹 7月22日、白鷹町貝生地区 近くの貝生川が決壊し、水田に土砂が矢印の方向から流入している様子



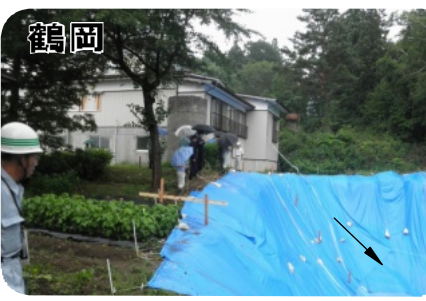
白鷹 7月22日、白鷹町役場(左から佐藤町長、野村副町長、渡辺県議) 佐藤町長「被害が大きく全容掴めない。激甚災害の指定を」



西川 7月24日、西川浄水場 村山広域水道水の給水停止を受け西川の浄水場へ職員「濁度が一時3000度に」と説明



西川 7月24日、西川町取水場 寒河江川にある取水施設(矢印) 寒河江川が濁っている様子



鶴岡 8月6日、鶴岡市大綱地区 大雨は鶴岡市にも被害 住宅の裏の森が突如数十mにわたって崩落 住民「今後の雨が不安」



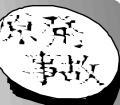
鶴岡 8月6日、鶴岡市羽黒 藤島川が氾濫 豚舎が2棟全壊(手前がその跡) 豚200頭余りが死んだり行方不明 社長「一度助けた豚が2度目の雨で流された。工事を早く」



県庁 8月6日、県庁 渡辺県議らが7月記録的豪雨に関し吉村知事に「激甚災害の指定を」「災害救助法、被災者生活再建支援法の活用を」など緊急要望



討論する渡辺ゆり子県議 (7月3日、本会議)



県がこうむった損害 しっかりと請求を

予算特別委

6月24日、予算特別委員会で渡辺ゆり子県議は、原発事故により山形県がこうむった損害の賠償請求について取り上げました。渡辺県議の質問(昨年3月)で、県は東京電力に5億6千万円の賠償請求(22年度23年度分)を行いました。

また「交渉は難航が予想される。支払いを受けるため対象項目を分ける精査を行っている。東電が対象外としているものについては、引き続き粘り強く交渉を継続する」と決意が示されました。

対象を絞る東京電力 委員会では渡辺県議は「現状は」と質問。加藤危機管理監は「東京電力は賠償の対象を限定している。県としては納得できない」との認識を示しました。

たが交渉は難航しています。

その他に予算特別委員会で取り上げた質問

1. 避難者借上住宅の長期延長を
2. 日本海病院独法化に伴う県職員引上げ状況と大量採用について
3. 看護需給計画の需給ギャップが大きい。もっと支援を
4. 介護労働「専門職としての位置づけを」
5. 県立庄内海浜自然公園計画未策定と風力発電計画について

特に2,3は病院独法化の影響で看護師不足に拍車がかかったことが分かりました。県では看護師不足の対策を講じていますが更なる対策が必要と考えます。

渡辺県議は「費用は現在もかかり、これからも続きます。しっかりと請求を」と訴えました。6月定例会補正予算で自生山菜の検査体制強化費用の770万円が計上されました。

「原発事故・子ども被災者支援法」 具体化求める請願採択

6月定例会に「リトル福島避難者支援ネットワーク」(代表・佐藤洋)から提出された「原発事故・子ども被災者支援法」の早期具体化を求める請願が、7月3日、全会一致で採択。国へ意見書提出となりました。請願は、未策定となつて

いる被災者支援基本方針の策定と避難者の十分な意見の反映を求めるものです。渡辺県議・共産党を含む各党派7人が紹介議員となつた請願でした。

県は7月の記録的大雨により住家が全壊、半壊した世帯に災害見舞金を支給する方針です。全壊世帯に20万円、半壊10万円支給となります。財源は予備費で、対象は10世帯です(継続調査中)。本来であれば全壊で最大300万円が支給される「被災者生活再建支援法」がありますが、国の要件が厳しく、県内では対象になりません。政権の被災者支援策が問われます。

国の姿勢が問われる豪雨災害 8月臨時会開会 県・支援金の方針

県議会は8月26日、災害対応予算と県職員らの給与削減のため臨時議会を1日間、開催しました。今回の大雨で住宅の宅地内に流入した土砂や災害廃棄物の処理運搬費用が課題とされています。県は1千万円の独自予算を補正予算に盛り込みました。渡辺県議は8月補正予算案に賛成し、給与削減条例案には反対しました。